

第13号 華山会報

平成16年10月11日
財団法人華山会

これからの書画の保存について

独立行政法人文化財研究所

東京文化財研究所名誉研究員

工学博士 見城敏子



日本は、春から秋までの約半年間、高温多湿の気候のためにムシ、黴が発生し易く、書画の材質への被害が大きい。このため、我が国では、収蔵品の殺虫、殺菌に臭化メチルが広く用いられてきたが、臭化メチルはオゾン層を破壊する物質として先進国では二〇〇五年までに生産と消費の全廃が決められている。そこで、これからの書画の保存には、化学物質に頼らず、庫内の温湿度、風の環境管理と清掃が重要になってくる。

書画の収蔵庫の保存環境としては、外界の影響をできるだけ遮断することが必要であり、人の出入りを少なくし、出入りの際の外気の侵入を避けるために三重扉か前室を設け、収蔵庫の躯体の断熱性を良くして、外気温が大きく変化しても庫内の温度、湿度の変化が極めて小さくなるようにし、内装に吸放湿性のよい木材などの内装材を使用することによって、庫内湿度の変化を一層小さくすることが肝要である。庫内湿度変化が大きいとムシや結露を生じ、虫、黴が発生して書画を傷める危険がある。この結果、収蔵庫には、原則として空調の必要はなく、ムシ易い時期に、庫内温度を下げるため短期間空調すればよく、空調運転費の節約にもなる。書画の保存方法としては、裸ではなく、吸放湿性の良い薄葉紙に包み、更に麻・木綿などの布に包んで、桐、杉の保存箱に、一割以上の空間を残して入れ、収蔵庫に収納する。内装材や保存箱に用いる木材は、新しい材ほど酸性のヤニを放出して収納物を汚染するので、必ず枯らし、環境モニターでチェックした後使用する。

一般に、庫内の温度、湿度の一日の変化は中央が最も小さく、西南が最も大きいので、大切な書画ほど中央に収納する。書架は、最下段が床上一〇糎以上の高床式とし、書架の天井板と書庫の天井との間に七〇糎程度の空間を設け、棚の高さをできるだけ揃えて庫内に適遍なく通風できるようにする。更に、六月に入ると、虫、黴の発生し易い環境になるので、五月中に収蔵庫内の清掃を行う。書画を調査、展示、鑑賞する際には、書画が置かれていた温湿度環境をできるだけ変えないように留意し、また、照明や取り扱いが書画の劣化を起さないように配慮すべきである。これからは、火災や地震が発生し、空調が止まっても、一週間程度は庫内の温湿度がほとんど変わらないような断熱性と調湿性を有し、しかも耐火性、耐震性を備えた土蔵のような収蔵庫を作ることが望ましい。



田原市民俗資料館

「渡辺華山研究」と小澤耕一先生

田原市老人クラブ連合会長
河合 潔

昭和三十九年度の渥美町立泉小学校長は小澤耕一先生であった。私はその学校に勤務していた。

小澤先生は、温厚誠実、慈愛深くすぐれた見識のある校長先生として慕われていた。また先生は、当時すでに華山先生の著書を発行するために古文書を研究しておられ、学究肌の先生として知られていた。

私が華山先生に特に心を引かれたのは、昭和四十五年から八年間田原中部小学校に勤務していた頃である。

毎年、学芸会で伝統のある「華山劇」に魅せられたこと、またPTA発行の『家庭と学校』に華山先生関係のことを掲載するために小澤先生にご指導をいただいたからである。

華山先生の一生は、悲劇の生い立ちに始まり、逆境に負けず、寸暇を惜しんで漢書を読み、命がけで画業に励み奥義を究めておられる。そし

て藩政にとりくみ西洋事情を研究され、精いっぱい生きた幕末の先覚者として、壮絶な生涯を終えられ、その人間的魅力に引かれたのである。

その後、私が神戸小学校校長の昭和五十五年頃、岡崎文化振興会の会報に「渡辺華山」の生涯について掲載の原稿依頼があった。そのため、改訂六冊まで発行されている小澤先生の『華山渡邊登』の名著を何度も読みかえしたり、小澤先生のご教示をいただいて責任を果たすことができた。

その当時昭和五十七年、小澤先生が『華山書簡集』を発行された。その著書について華山研究家佐藤昌介先生は「華山研究家の渴望をいやす快事である」といわれている。

その後、平成十年五月、小澤先生が米寿記念として『渡辺華山研究』三河田原藩の周辺と画論を中心に『の著書』の著書が発行された。その著書を愛教同三河地区会・竜城会の冊子『たつき』で紹介したいので、原稿の依頼があり、小澤先生の了解を得

て紹介させていただいた。

この著書は、いままでの諸誌に発表された研究の中から貴重な自撰を集録し、華山先生及び周辺の歴史的事象を一層明らかにしたことで高く評価されている。また華山先生の画やまわりの画人たちなどをくわしく、するどい見方で論評されている。

その当時小澤先生は、華山先生の画の鑑定についても日本の第一人者であった。先生の鑑定なら間違いなことのことで、全国から鑑定の依頼をうけておられた。

小澤先生は、二十五、六歳頃から六十余年の歳月にわたって華山研究に没頭されていた。多くの著書も発行されており、その功績は誠にはかりしれないものがある。

現在、博物館関係者、華山・史学研究会等が華山先生の偉大な遺徳を偲び、人間の生き方に寄与するよう、研究されていることは、すばらしいことであり、感謝にたえないところである。

目次

	題字「華山会報」華山会理事 小澤耕一
P	これからの書画の 保存について 見城敏子
P	田原市老人クラブ連合会長 目次
P	画家渡辺華山の心象 『蘆汀双鴨図』
P	「缺舌小記」「缺舌或問」 田原市博物館所蔵品から
P	『林半水筆端木像』 渡辺華山の
P	「自律狂歌草稿」鑑賞⑤ 学校教育と華山
P	国宝鷹見泉石像の モデルが集めた文物
P	赤羽根小学校で聞きました 「華山を知っていますか？」 各地の美術館を訪ねて 常葉美術館
P	財団法人華山会 からご案内 田原市博物館

画家渡辺華山の心象

蘆汀双鴨図
ちろていそふあうず

文化十一年（一八一四）絹本着色

縦一〇三・〇cm 横三六・八cm

常葉美術館蔵

画面左上に「文化甲戌秋九月晦日 寫于寓画堂 華山邊靜」と、白文方連印の「邊靜・子安」を捺しています。落款にある「寓画堂」はこの年から数年使用する堂号です。華山は、この年一月から藩の納戸役を命ぜられ、絵画を志す仲間を集め、絵の鑑定・批評を行う「絵事甲乙会」を結成しました。

水辺の土坡に羽を休め、寄り添う雌雄二羽の鴨を配し、画面左から右上方に向けて長く伸びた蘆を淡墨の外隈描で描いています。華山は十七歳から谷文晁の画塾写山楼へ通い、中国から長崎に來泊した沈南蘋の作

品を学んでいます。群青や緑青などの濃色な色使いと塗り重ねに華山の若き日の技量をうかがい知ることができます。同日に「文化甲戌秋九月晦日摸成 馬三峯之筆 寓画齋蔵」と款記のある中国の三国志で活躍する関羽と張飛を描く『関羽像』が知られています。同時に人物図と花鳥図という分野の異なる二点の作品を完成させています。また、この作品の二年後にあたる文化十三年の日記『華山先生謾録』（静岡県指定文化財・個人蔵）下冊第十八紙裏に十一月十九日の頁に首を後にねじ曲げた雄の鴨が土坡の上に描かれる花鳥図の小下絵があり、前頁には「巻左衛門頼」「同頼」とあり、

年が異なりますが、構図を同じくする作品が作られたことも指摘されています。華山は二十代で谷文晁の画塾写山楼で目にするのができた伝統的な写生画の代表格と

して沈南蘋作品を受容していたことがわかります。この作品の翌年に該当する文化十二年の日記『寓画堂日記』は元旦からはじまり、十二月晦日までの記述が見られますが、九月十三日から十一月十七日までの分は欠けています。この頃、父の病葉代に苦しむ家計を助け、自らの紙筆を賄うために寅（午前四時）か卯（午前六時）には起き、初午燈籠の画を描き、百枚で一貫文の内職にも励んでいます。六月頃から華山自身の体調もすぐれず、また、七月二十八日に先代三宅康友夫人黙笑院が亡くなり、八月三日の葬送に御棺前歩行の役を勤めています。十一月十一日に

十八歳の藩主康和が將軍家斉に初お目見えを果たしています。

この翌年には、『野鹿図』（個人蔵）・『一路功名図』（個人蔵、華山会報第八号にて紹介）・『竹鷄小禽図』（個人蔵）という二十代前半の花鳥画の名作を制作しています。その予兆を感じさせる作品として位置付けられるでしょう。

田原市博物館学芸員

鈴木利昌

この作品は11月14日まで開催される田原市博物館秋の企画展「渡辺華山と弟子たち」に出品されています。



「駄舌小記」・「駄舌或問」②

研究会長 渡辺 巨 祥

駄舌小記 ニ マンの履歴を記したもの 「底本は蓬左文庫・鳩舌小記」

天保戊戌年三月 嶋蘭貢使江戸ニ来ル 甲比丹名「ヨハン子ス、ウエルテウイン」姓ハ「ニユイマン」書佐名ハ「ゲルロウアンテ」姓ハ「デフリース」医師某モ亦例ニ依テ従来ルベキ所発前甲比丹ノ命ニ背ク「有テ俄ニ止ム大通辞岩瀬弥十郎小通辞森源左衛門

天保九（一八三八）年三月、オランダ商館長が江戸に來た。商館長の名は、ヨハンネス・エルデウイン、姓は、ニーマン。書記の名は、ゲルロウアンテ、姓は、デ・フリース。医師某も、例によって従い來るべき所、出發前に、商館長の意に背く事があつて、俄に取りやめた。大通辞は岩瀬弥十郎、小通辞は森山源左衛門である。

一、「ニユイマン」ハ紀元千七百九十七年 寛政十年 嶋蘭國都「アムステルダム」ニ生ル今年四十二歳ト云十六歳ノ時軍艦計司トナリ又都府ノ勅官トナル後藝學ノ為ニ「ゴロートフリタニア」英吉利 ノ國都龍動 ロンドン ニ留学スル「凡五年拂郎西國都把理斯パリス」二十一年獨逸國都勿能 ウエー子ン 二二年許後又亜細亞諸島ニ官遊シ蘇門答羅 スモタラ 及爪哇 ジャガタラ 二至り板太比亞 バターピア ノ甲比丹ノ職ニ撰バレ位階「リットル」トナレリ尋テ「ゼ子ラール」奉行職 二進ムベカリシヲ固ク辞シテ我朝ニ来リシトシ

ニーマンは、紀元一七九七（寛政九）年、オランダ國都アムステルダムに生まれ、現在四十二歳である。十六歳の時、海軍の經理係となり、又政府の公務員となる。後、學問の爲にイギリス國都ロンドンに留学する事、凡そ五年、フランス國都パリに十一年、ドイツ國都ウインに一年ほど、又、アジアに公費留学し、スマトラおよびジャワ島に來て、バタビア（ジャカルタ）の商館長に選はれ、官位は騎士となつた。つぎに総督になるはずであつたが、辞退して日本に來たといふことである。

「ニユイマン」ノ志ハ藝學ニ厚ク仕進ニ薄シ常ニ三公官ニ羈サレ候ヘハ志遂難シ歸國ノ時ハ天竺ヨリ陸行シ物理人情極メ知ラントセシ由「ニユイマン」ノ學ハ「アルゲメー子 アイ

ルドレイキス（地利家）ニテ嶋蘭ヲ去テ廿三年ニチレリ「ニユイマン」身ノ長七尺三寸豊肥牛ノ如シ、紅毛碧眼 或曰和蘭人多クハ楮眼ナリ偶々碧眼ナルモノハ必北粟ナリト云面桃紅ヲ暈ス人トナリ眞率ナレトモ少シ執拗ナル由

「ニーマン」の志は、學芸に厚く、仕進（出世）に関心が薄かつた。常々、役職に束縛されていると志を遂げることは難しいと言つていた。歸國の時は、天竺（インド）より陸路をとり、各地の物理、人情を見極めようと考へていた。「ニーマン」の學問は、「アルゲメー子・アルドレイキス」（一般地理學）で、嶋蘭（オランダ）を出てから二十三年になつていた。「ニーマン」の身長は七尺三寸で豊肥牛（肥えふとった牛）のようであつた。頭髮は紅色で、眼は碧く、ある人がいつのには、和蘭人（オランダ人）は大抵は、楮眼（あか土色の眼）である。たまたま碧眼であるのは、きつと北粟（北方出身）であるからであらう。と 面（顔立ち）は、紅のくまのようである。人となりは、眞率（眞摯）であるけれども、少しばかり執拗（かたいぢ）のようであつた。

書ヲ讀ミ陰ヲ惜ム「客坐飲食ノ間モ肩與瀕瀕ノ中モ手書ヲ釈ク」ナシ三月十五日登城歸路彦根侯ノ邸ニ至リ通辞某ニ申セシハ御大老ノ賓館ヲ一覽セシカハ其他ハ推テ知ルベシ明日ノ廻勤ハ染ミナシ願クハ旅宿ニアリテ書ヲ看ルニ如スト與中更ニ讀書シテ他ヲ見ストナリ讀書に光陰（日月、時）を惜しむこと甚だしく、客の座席で飲食の間でも、肩與（けんよ）かごに乗つて居る時、瀕瀕（こんし）トイレ）の中でも書物を手から釈く（おく）捨てることはなかつた。三月十五日、江戸城で將軍に拜禮した歸り道、彦根侯（大老井伊直亮）の屋敷に入り、通辞（通訳）某にいつことには、「御大老の賓館（客間）を見ることのできたので、その他のところは、およそ想像ができる。明日の廻勤（勤めでまわること）は楽しみがない。願わくば、旅宿にいて讀書をしてほしい」といつていた。與中（乗り物のかこのなか）でも讀書をしていて、更に他のものを見ようとはしなかつた。

一、人ニ逢ハバ江戸ノ町数橋数戸口ノ多少御城ノ狭廣寺社邸宅等ヲ問フ江戸ノ廣大無辺ナルヲ以テ誰知ル者ナケレバ學問ニ深切ナラサルトテ笑ヒタリトシ

一、人に逢えば、江戸の町数、橋数、戸口（家数）の多少、御城（江戸城）の広狭（広さ）、寺社、邸宅等を問つた。江戸が廣大無辺（大変広い）であつて、誰ひとり知る人もいないので、學問に親切でないといつて笑つていた。

一、「ケンブル」ノ著セシ日本志ヲ傍ニ置テ讀「急ラス曰ク後來日本志ノ著アマタアレド

モ此物二及者ナシ今此板亡タレト終ニ其声價ヲ滅セザル者哲人タル所以也

一、「ケンベル」(東インド会社のドイツ人医師)の著わした日本志を傍らに置いて、真剣に読んだ。そして曰く「この後、日本志の書物は多数あるけれども、これに及ぶものはない。この板(木板)は「はんぎ」はなくなつたけれども、それでもその声価(名声)が減していないのは、識見のすぐれた人なればこそである。」

一、途中ニテ諸侯諸官ノ儀制ヲ見テ驚テ申ケルハ從者ノ夥シキハ世界第一也西洋諸國ノ夢見スル所ニ非ズサレド雜冗ニ堪スシテ益アルヲ知ラズ我國軍議ノ會ナラデハカヽル人ハ費サザル也「ゼ子ラル」ハ奉行職ナレドモ從者ハ僅ニ二十二人皆止「ヲ得ズシテ具セル也日本制度ノ意推テ計ラレスト申キ

一、途中で諸侯・諸官の儀制(大名や旗本などの供廻りの制度のこと)を見て、「從者(家来)の夥(おびただ)しきは世界第一である。西洋諸國の想像できることではない。けれども雜冗(ざつじょう)煩雜(はんざ)で無駄(むだ)に堪(た)えず(たえ)ること(こと)ができなく、利益はない。我國(オランダ)軍議の會(戰爭などの非常事態の対処)などでなければ、このように多人数は費(た)やさない。ゼ子ラル(総督)は奉行職であるけれども、從者は僅かに二十二人である。皆(みな)やむをえず(そな)える(え)るものである。日本の制度の意(あり方)を推し量(はか)られない」といった。

一、西城炎上ノ時火樓ニ登ラントセシカバ諸吏押止テ讓ニ許サズ「ニユイマン」云我國古來ヨリ日本ノ御恩ヲ蒙リ非常ノトキハ忠勤致スベキ身分ニテ變事ノ如何ヲモ存ゼスアリテハ如何ニモ易カルベキ様ヤハアルトテ強テテ求トモ終ニ免サズ

一、西城(江戸城西丸)炎上の時、火樓(火の見やぐら)に登ろうとしたが、諸吏(役人)が制止して讓(みだり)に許されなかった。ニーマンが云う、「我國(オランダ)は古来より日本の御恩をうけているので、非常時には、右の役目を果たすべき身分であるので、變事(西城の炎上)の如何を知らないでは、どうしても心易からざるものがあると思(おも)う」といって、強(こ)いて乞(こ)い求めたが、どうしても許されなかった。

一、炎上僅ニ二時計ナルヲ以テ甚疑ヒ申ケルハ拂郎察失火ノトキ主城ノ烟火十二日ニテ止ム一薪火ノ度ヲ以テ計ルニ如何ニモ狹隘ノ宮殿ナランカ或答曰我邦ノ人屋皆土木ニテ宮殿トイエドモ土木也其上ニ二百年來祝融ノ災ニカヽラズ故ニ地板下塩硝サルベートルノ氣多ク生ゼシニ由ルカ西洋金石ノ結構ヲ以テ計ルベカラスト申セシカバ去ルニテモ有ベカランカトテ默シヌ

一、炎上僅(わずか)に二時計(四時間)であつたが、甚(はなはだ)疑問に思(おも)つのは、「拂郎察(フランス)失火の時、王城の煙火(燃えさかること)は十二日間で止んだ。一薪火の度(炎焼の時間)をもつて比較すると、如何にも狹隘の宮殿(狭い宮殿)ではなからうか。ある人答えて曰く、「我國(日本)の人、家屋は皆土と木でできているので、宮殿といえども土と木である。その上に、二百年來、祝融ノ災(火災)にあわなかつた故に、地板下(床下)に塩硝(サルベートル)の氣が多く生じているので、西洋のように金石の結構(構造)をもつておしはかることはできない」と申したので、「そつゆ(こと)もあるであらう」といって黙(も)つてしまつた。

一、間間救火ヲ見テ申ケルハ火衣ノ窄袖ニシテ長ク手ヲ過ルモノハ救火ニ便ナリトテ感シ又去レド綿帽八宜シカラズ我國ニテハ三角ノ鉄鉢ヲ用ユ又水竜ノ制モ精シカラズ我國ニテ「ワートルスポイス」ト名付ル物數十丈ノ皮渠アリテ水ヲ引「イト容易ニナン有ケル去カラニ井水ノ浅深八更ナリ江河ノ遠近山沢ノ高低トイヘドモ蜿蜒起伏シテ達セザル勞ナシ抑其皮製剛柔度ヲ得タルヲ以テ其上ヲ車馬ノ往來スト雖損壞セル患ナシ

一、間間救火(りよえんきゆうか)を見(み)ていう(いう)には、「火衣(消防服)の窄袖(さくしゆう)つ(つ)そで(そで)が長く手を通すようになってゐるのは、救火(火から救つ)に便利になつてゐる(ゐる)と感じた。けれども、綿帽(綿入れの帽子)はよろしくない。我國(オランダ)では、三角の鉄鉢(てつぱつ)を用(もち)いる。また竜吐水(水鉄砲)は精巧でない。我國(オランダ)で「ワートルスポイト」(放水器)と名(な)づけてゐるものは、数十丈の革渠(革製のくた)「ホース」がついていて、水を引(ひ)くことは大層簡単である。そうであるから、井水(井戸水)の浅深(あさはか)は関係なく、河川の遠近、山沢(山やさわ)の高低(たかひ)なども蜿蜒起伏(えんえんきふ)「長距離を上り下り)してもとどかないことはない。その皮製は、剛柔度(こうじゆうど)を得(と)り(適度の弾力をもつ)て、その上を車馬(くるま)が往來(おうらい)しても、損壞(壊れる)という患(あはれ)はない。」

若人群雜沓水道ヲ妨ル「アレバ架ヲ設ケ高ク掲ゲ或八屋上ヲ渡シナドシテ心ノ俛ニセル也又水龍ノ制モ一三三三スベキニ非ザレドモ大様水槽ヲ腹トシ水口ヲ嘴トシ一人此嘴ヲ以テ上下左右ヲ司リ小引スレバ近ク低ク滿引スレバ遠ク高キヲ射ル」大凡五六丈ニ及ベシ日本水龍八瀉水間斷アリテ高射スル「能ハズ水槽ニ蓋ヲ覆タランニハ水勢ノ増」モ有ナン又用ユルニモ順風ニ射ランデハ益ナシ逆風ニハ中々火氣ヲ激シ勢ヒ猛ニ延焼スル也八夕我器八日用ノ「ナラデ軍中放火ヲ受シトキ備フ旨トセルナリ

もし人群雜踏(あひまみ)がはげしく、水道を妨げる事があれば、支えの台を設け、高く上げて、あるいは屋上を渡すなどして思(おも)つ(つ)ようにすることができる。また、竜吐水(水鉄砲)

について、一言で言うこともできないが、大様(大要)水槽(みづぶね)を腹とし、水口を嘴(くちばし)として、一人が嘴(くちばし)を持って上下左右に司り(動かし)、小引すれば(水槽に水をすこし引けば)近く低く、満引すれば(水槽に水をいっぱい引けば)遠く、高いところを射る(放水すること、およそ五、六丈にも及ぶ)である。日本の竜吐水(水鉄砲)は、瀉水間断(放水にきれめがある)があつて高射(高い所を射る)することができない。水槽に蓋をすると、水勢がますますあつた。またそれを用いても、順風に射る(放水する)だけでは用は果たさない。逆風には、かえつて火気を激し、勢い猛(にわか)に延焼(燃えひろがる)するものである。一方我器(オランダの放水器)は、日用(日常)に備えるものではなく、軍隊の中で放火をつけた時に備えているものである。

一、江戸ノ府ノ大ニ比シテ八川少シ

一、日官 テンモンカタ 山路渋谷足立ノ三氏及其生徒天文御用ヲ以テ質問ノ一願ナリテ「ニユイマン」ニ申渡ナレシハ三君ハ上職ニテ生徒一同ニテハ非礼ナレバ先ズ生徒ヨリ先ニ面會セント同月十二日堀小関ナト云ヘル人々ヲ邀ヘタリサルカラニ町方御勘定長崎ノ三奉行ノ下吏審実トシテ立合セル由ヲ聞テ検使ハ罪人吟味ノ時ナラデハアルベキ様ナシ学藝質問ノ上ニ何ノ御疑ノアルベキヤ左様ノ御疑ノ有ベキ人々ニ質問仰付ラレザル力宜キ也ト

一、江戸の府(都)が大きいのに比べて、川が少ないよつである。

一、日官(天文方のこと)である山路(山路諧孝)・渋川(渋川景佑)・足立(足立信頭)の三氏、及び生徒(ここでは臨時に出仕を命ぜられたもの)等、天文御用のことと質問があると願ひ出て、ニーマンへ申し渡されたが、三君は上職であり、生徒と一緒にでは非礼となるので、先ず生徒から先に面会しよう、同月十二日、堀(堀専次郎)通訳)・小関(小関三英)通訳)などという人を迎ひ入れた。それであるから、町方(江戸町奉行)・御勘定・長崎の三奉行の下官(かりに下役人)を審査として立ち会わせると聞かされて、「検使は罪人を吟味するときにありますので、必要はない。質問の質問をするのに、何のお疑いを持つことがあるつか。お疑いのある人々に質問を仰せつけたいのがよろしかつ」と。

通辞共様々ニ賺シ諭セドモ聞入レズ「デフリース」殊更ニ申セシ由其日ハ終ニ暮タリ其翌堀氏 長崎通辞今天文臺ニ出役セシ人ノヨシナリ「ニユイマン」ニ申ケルハ甲比丹申サレシハ即道理ナリサレド質問ニ答ラレ候ニ検使ノ有無ニヨルベキ様ヤハアルスハカリノ一ニテ大政ヲ枉ンコトノ今更出来ベケンヤ

通辞(通訳)たちをさまざまに説明してすかし諭したけれども、聞きいれてくれない。デフリース(商館員)は殊更に強硬であった。その日はついに暮れてしまった。その明るる日、堀氏(長崎の通訳で、今は天文台に出仕している人とのこと)がニーマンに申すには、「甲比丹(かびたん)オランダ商館長」の申されることは、道理は、則(すなわ)ち道理であるが、質問に答えられるのに、検使の有無によるわけではない。これはかりのことで、大政(幕府のおきて)を枉(曲げる)ようなことが、今更できるわけがない。

甲比丹道理ニ明ニシテ此言ヲ出シ候ハ必執拗トナラデ八聞ヘ不申候我邦ニ来リ申サレニハ我邦ノ法ニ随ヒ申サルベキナリ若執拗ノ聞ヘアランニハ甲比丹ノ言理也共通ラザル「モアルベシ去レバ一旦ノ事ニテ後々障ニナランニハ心安カルベキ様ナシト申ケレバ「ニユイマン」黙シ又堀ノ言葉ニ從ヒ同月十九日皆質問ノ事畢リ候由コハ旅情ヲ養ントテヤ質問ノ事ナリ最喜ヒ内々酒肴ナド設セシナリトソ

右洋人性情ヲ何フ一班ナレハ人々ノ伝聞ヲ打聞タルマ、記シヌレハ誤リモ推量リモ打混リテ空語コソ多カルベケレ

甲比丹(かびたん)オランダ商館長)は道理に明らかで、このことを言い出せば、必ず執拗(かたいぢ)となつて聞いてもらえない。我国(日本)に来てもの申すには、我国(日本)の法に従わなければならない。若(もし)執拗(かたいぢ)といわれるようでは、甲比丹(かびたん)オランダ商館長の言葉は、道理であつても、通用しないこともある。そうであるから、一旦(ひとたび)の事で、後々の障(さわ)りになるようでは、心安からざるものがあると申したので、ニーマンは黙つてしまった。堀(堀専次郎)通訳)の言葉に従ひ、同月十九日、皆質問を終つたということである。そこで旅情を養(豊かにする)おうとして、質問の事が終了したので、よろこびうちとけて、酒肴(しゅこ)「さけさかな)等の宴会を設けたということである。

右は、洋人(西洋人)の性情(こころだて)を伺つ(ひとつ)のできこと)であるが、人々の伝聞(いいたえ)を聞いたままに書いたもので、あやまりも、推測も混じつて、空語(そらごと)が多いかもしれない。

田原市博物館 所感呎から

重要文化財 林半水筆端木像

(孔門十哲像の内) 亀田鵬齋賛

絹本着色

縦一〇二・九cm 横三六・九cm

賛の意味は次のとおりです。

瑚璉(祭器)の呼び名は、みたま
やのはかりごとの器。政務をとり行
えばすぐに到達し、すばやく二つの

端木は姓を端木、名を賜、字を子
貢といいます。孔門十哲の一人です。
衛の国の人で、雄弁で蓄財の才があ

りました。孔子の名声が天下に知れ
わたるようになったのも、子貢が付
いていたからです(史記・貨殖列
伝)。子貢は孔子のスポンサーであ
り、パトロンでありました。「これ
こそ、財産家は権勢も手に入れて、
ますます有名になる。」(同)。
画を描いたのは、林半水。兵庫の
明石藩士です。田原藩江戸上屋敷の
隣が明石藩で、華山との交流があり
ました。半水は、林儀助といい、画
に秀で、没年ははっきりしません。
賛の亀田鵬齋は江戸神田に生まれ、
折衷学を学び、家塾を開きました。

しかし、時の老中松平定信は朱子学
を重んじ、鵬齋の門人を仕官できな
くしました。浅間山の噴火の際には
蔵書を売り貧民の救済をするなど、
義侠心の厚い人でもありました。
この作品は、昭和三十年二月二日
に重要文化財に指定された渡辺華山
関係資料の附として、同三十二年一
月九日に追加指定され、昭和五十三
年三月二十四日に歴史資料に指定替
えされました。
田原市博物館学芸員
磯部奈三子

瑚璉之稱廟謀之器 瑚璉の稱 廟謀の器
從政以達敏捷知一 政に従えば以て達し敏捷にして一を知る
性與天道既親其奧 性と天道と既に其の奥を親
所億常中咸稱聖道 億ばかりる所常に中り咸聖道に稱つ
窺數仞墻見宗廟之美 數仞の墻を窺い宗廟の美を見る
治垂其統詩獲其旨 治は其の統を垂れ詩は其の旨を獲
斯文弗墜矣賴端氏 斯文墜ちざるは実に端氏に賴る
弦梧赤奮若春三月朔
大日本 後学 龜田鵬齋沐拝題

半水林憲薰沐敬寫



渡辺華山の「自律狂歌草稿」鑑賞(5)

十五、ちとせまで

(狂歌)

ちとせまでかきれる

我の無信心君に

ひかれて善光寺

参

(本歌)

大中臣能宣

千とせまで限れる松もけふよりは

君にひかれて万代や経む

拾遺集・卷一・春四

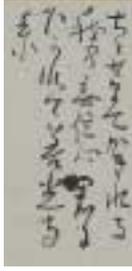
(狂歌の意)

千年までと限りのある私の無信心であるが、(ことわざの牛ではなく)君にひかれて善光寺参りをしたことだ。

(歌意)

千年までと限りのある松も今日からはあなたに引かれて万年も年を経ることでしょう。

(鑑賞)



「牛に引かれて善光寺参り」ということわざがある。これは、『今昔物語』の中に出てくるもので、不信心の老婆が逃げる牛を追って善光寺に至り、信仰に入ったという伝説から、自分の意志でなく、他のものによって偶然に善事に導かれることの譬えとして使われる。華山は、本歌の「君にひかれて」の部分からこの「牛にひかれて」「ことわざを想起したのである」。

本歌の作者大中臣能宣 延喜二十一年(九二二)〜正暦二年(九九一) は後撰集の選者としても有名な人であるが、この作者の長寿を祝う賀の歌を、華山は無信心な人が、牛ではなく他人に引きずられて善光寺参りをしたことにすり替えることで笑いをよぼつとしたのである。末の句の「善光寺参」の字余りは表現上やや落ち着かない感じだが、致し方のないところか。それよりも、華山の着想をよしとするべきであろう。ちなみに、この本歌を元にして、華山の友人の太田蜀山人も次のような狂歌をよんでいるので、参考までに記しておくことにした。

「萬年とかぎれる龜も尾の長きともひかれて億兆やへん」

歌の意味は、

萬年と決まっている以上に、尾のある龜に引かれて億兆年も長寿を重ねるだろう。というのである。

十六、やかすとも

(狂歌)

やかすともかゝは

もえなん女郎買

たゝ友達にまかせ

たらなん

(本歌)

壬生忠見

やかすとも草はもえなん春日野を

ただ春の日にまかせたらなん

新古今集・春上・七八

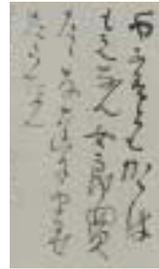
(狂歌の意)

やかすともをやかかないでも女房はかつかやきもちを燃やすであろう。女郎買と怒りの炎を燃やすであろう。女郎買いはただ友人に任せてしまつてほしい。

(歌意)

野焼きをしなくても草は萌え出るであろう。ただ春の日の光だけに任せておいてほしい。

(鑑賞)



本歌の作者壬生忠見は、古今集の撰者として有名な壬生忠岑の子である。醍醐天皇に召されて蔵人所に出仕し、天徳のはじめに撰津大目となった。天徳の歌合わせで活躍したが、その歌合わせの際に、彼の作った、「恋すてふわが名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか」の歌が、平兼盛の

「忍ぶれど色に出にけりわが恋はものや思つふと人の問ふまで」に負けたため、それが原因で病気になって、没したと言つことである。この本歌は、春日野の春の草萌えを詠んだものであるが、華山の狂歌は、これを恋愛の世界に替えて、女郎買いをする男への忠告の歌に仕立てている。本歌の「草は」を「かゝは」に変え、「春日野を」を「女郎買」に変えるだけで、やきもちを焼く女房の怒りとそれを知られて友人の前であわてている男の姿などが想像されて、陽気な笑いがこみ上げてくる狂歌となっている。この他、「焼かず」からは「妬かず」も連想され、ほんの少しだけ語句を取り替えるだけで、庶民的な健康な笑いを作り出している。

文法的に、「もえなん」の「な」は完了の助動詞未然形。「ん」は推量の助動詞終止形。燃えてしまつてあるうの意。「たらなん」の「たら」は完了の助動詞未然形。「なん」は「もえなん」「の」「なん」と違い、「なん」は未然形に接続しているのので、この場合は他にめづらえ望む意の終助詞。したがって、「...してしまつてほしい」の意となる。

十七、下女いたミ

(狂歌)

下女いたミ蕎麦もる皿

(本歌)

源 重之

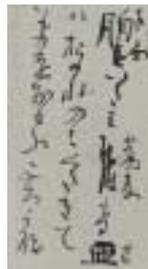
風をいたみ岩つつ波のおのれのみ

八おのれのミくたきて
ものおもふころかな

(狂歌の意)

下女がひどいので、蕎麦をもる皿は自分の身が碎けてしまい、(もつと大事に扱つて欲しいと)物思いをするこの頃であることだよ。

(鑑賞)



本歌は、前出の狂歌「我いたため人うちけんくわ仲立ちにくたけて物をおもふころかな」と同じ源重之の和歌を本歌としている。本歌の冷たい女に対する男の悲痛な恋心を、ここでは擬人化した皿がそば屋の下女の皿の扱い方の荒さを嘆くという趣向に変えて、狂歌の笑いを仕立てている。皿が擬人化しているということに気がつかないと分かりにくいし、面白さも半減する歌である。

「下女いたミ」は、「下女」が名詞、「いた」は形容詞「いたし」の語幹、「ミ」は接尾語。下女がひどいのでの意となる。「おのれのミ」は、本歌の場合には「のみ」は限定の意味を表す副助詞だが、狂歌の「のミ」は、「の」は格助詞、「ミ」は名詞の「身」の意味。従つて、「おのれのミ」は自分の身ということ。「み」の同音異義を巧みに利用したものである。また、狂歌の「くたきて」は本歌の「くたけて」を華山が間違えて記憶していたものである。この狂歌は、やや理が勝つた狂歌になつてしまつているところが気になるが、皿を擬人化するなどの趣向はなかなか着想が奇抜で、巧みである。

くたけて物を思ふころかな
百人一首・四八

(歌意)

風が激しいので岩を打つ波が岩はどうにもならなくて自分だけが碎け散つてしまつよつに、私の思いも相手を動かすこともなく、自分だけが心も碎けてあれこれと物思いをするこの頃であるよ。

十八、帷子は

(狂歌)

帷子は小川の水になか
れけんみそきそ夏の
しるしなりけり

(狂歌の意)

帷子は小川の水に流れていったことだ
らう。襦きだけが、まだ夏であること
のしるしであるよ。

(本歌)

従二位家隆

風そよぐならの小川の夕ぐれは
みそきぞ夏のしるしなりける
百人一首・九八

(歌意)

風がそよよと楢の葉に吹き渡る、なら
の小川の夕ぐれは、既に秋の気配を感
じさせるが、襦きだけが、まだ夏であ
ることのしるしであるよ。

十九、五月雨に

(狂歌)

五月雨にお客さひしき
うなき屋はやくやもしほ
の身もこかれつゝ

(狂歌の意)

五月雨が降ってお客の少ないさびしい
うなき屋は、焼いている藻塩のように
うなぎの身も焦がれ続けていることだ
よ。

(本歌)

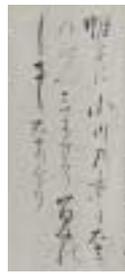
権中納言定家

こぬ人をまつほの浦の夕なぎに
焼くやもしほの身もこがれつゝ
百人一首・九七

(歌意)

(待てどくらせど) やってこない人を、
心待ちにする(私は)松帆の浦の夕風の
頃に(浜辺で)焼いている藻塩のように、
身もしきりにこがれ続けていることだよ。

(鑑賞)



「みそき」は「みそそぎ(身滌)」の約で、身に汚
れや罪がある時、それを祓つため、又、祭りなどの
神事のある前に河原に出て水で心身を清めること。
六月と十二月に行われたが、ここは六月のみそぎで、
「六月祓」のことである。本歌も狂歌もその「みそき」
の様子を取り上げて、まだ夏だったのだという感慨を主題としている。

本歌の場合は、京都市北区の上賀茂神社の中を流れる御手洗川の夕暮れ
の様子にまだ夏なのだと感じたことを主題としているが、狂歌は、そのみそ
ぎの時に脱いだ帷子(夏用の単衣の衣)が小川の水に流れていつてしまったと
いう笑いを加えた設定にしているところが狂歌的なところである。

狂歌としては、本歌の内容に寄りかかりすぎていることもあって、やや面
白さに欠けるところが惜しまれる。

(鑑賞)



本歌は、いつまで待ってもこない人を待つやるせ
なさを女の立場から詠った歌であるが、この本歌の
「夕なぎに焼くや」から「うなぎを焼く」「うなぎ屋」
を連想して狂歌に仕立てたのである。「身もこがれ
つつ」「もつなぎの」「身も焦げる」に通じ、なかなか巧みに本歌の内容を利用
して狂歌を構成しており、場面設定も面白い。

来ない恋人を待つ女のやるせなさが、来ない客を待つうなぎ屋のやるせな
さ、寂しさが変わって、おかしみがにじみ出てくるところがいい。お客のな
いまま焼かれたうなぎのうまさも半減といったところであろう。

研究会員 山田哲夫

学校教育と華山

研究会員

柴田雅芳

「学校では、渡辺華山を教えていないのですか。」

以前、このような質問をつけたことがある。そこで、

教科書

社会科では、小中学校ともに、東京書籍発行のものを使っている。

小学校の教科書には、華山についての記述がない。いわゆる、教科書には載っていない。

しかし、中学校の歴史の教科書には、「蘭学者の渡辺華山と高野長英は、外国船の打ち払いを批判する書物を書き、幕府によってきびしい処罰を受けました。」

という記述があり、博物館が所蔵する椿椿山の描いた華山の絵が載っている(二〇八頁)。さらに、折り込みの年表の一八三九年に「渡辺華山・高野長英らがとらえられる」の記述がある。し

かし、これだけである。小学校や中学校で使われる副教材の社会科資料集を見ても、華山の掲載については、各社まちまちである。

学習指導要領

小学校学習指導要領には、歴史学習で取り上げる人物の例として四十二人を挙げているが、残念ながら、この中に華山は入っていない。

さらに内容厳選の観点から、「歌舞伎と浮世絵」「国学と蘭学」のいずれか一方を取り上げることができるようになっている。つまり、「国学と蘭学」は、必ずしも取り上げなくてもよくなっている。

しかし、学習指導要領の解説に、「指導のねらいを実現できるのであれば、例示した人物に代えて、他の人物を取り上げることでも可能である。」(日本文教出版株式会社『小学校学習指導要領解説社会編』一三三頁)とあり、華山を教材として取り上げることが可能である。中学校学習指導要領には、華山を学習するような記述はない。

学校現場

学習指導要領改訂のたびに、華山を授業で取り上げ難くなっている学校現場ではあるが、会報八号で、山田政俊校長先生が書かれているように、旧渥美郡内には、華山を教材として社会科の授業に取り入れられている先生が多くいる。郷土の偉人子どもたちに知ってほしいという願いがあるからである。

江戸時代を学習する上で、華山ほど適した教材はないと思う。子どもたちが、華山の生涯を調べていけば、学習指導要領がねらいとする江戸時代の学習の多くが可能である。

その一例を紹介すると、蘭学や鎖国・幕末の様子はもちろん、画家としての業績からは、江戸時代の文化。為政者としては、飢饉の様子・農民の生活・税制・特産物。さらに、立志からは、身分制度・武士の生活・参勤交代。一人の人物でこれほど多くの事象を含む人物は、他にはないといっても、過言ではないであろう。

これほど教材として優れた人物なのに、大きな壁がある。それは、授業時間数もあるが、子どもが、どれだけ華山を身近に感じているかということである。取り上げる教材は、子どもとの興味関心の度合いにより左右される。その現状が、華山会報に連載されている『小学校で聞きました 華山を知ってますか?』の小学生の回答に表れている。

私の経験を述べると、田原中部小学校在職時、江戸時代の学習を華山で終始し、子どもが活発に学習をした。神戸小学校でも、華山を取り上げたが、やや苦しい部分があった。赤羽根小学校では、遠見番所と関連づけ、一部扱った。田原中学校では、各小学校区の生徒の実態から、一時間だけ、それも説明で終わった。手元には、『少年物語渡辺華山』がある。私が小学校のころ、無料でいただいた本だ。市として、外部への華山の発信も重要であるが、今以上に内部への啓蒙へ力を入れていたければ幸いである。

国宝鷹見泉石像のモデルが集めた文物 古河歴史博物館「鷹見泉石展」への招待

「日本におけるフランス年」(一九

九八〜一九九九)、「フランスにおける日本年」(一九九七〜一九九八)をご記憶でしょうか。さまざまな交流がおこなわれる中、ドラクロワ(一七九八〜一八六三)の「民衆を率いる自由の女神」と法隆寺「百済観音」が、海を渡り双方で公開されたことは、殊に話題を集めたものでした。文化財がその国の象徴として交流の一翼を担うということは、古今、洋の東西を問わず、人類に共通した観念なのかもしれません。

さて、いまから九十四年前、明治四十三年(一九一〇)春のこと。同じような文化交流がおこなわれたことがありました。国中をあげて計画されたその事業とは、「日英博覧会」。その目的は、急速な近代化の最中にあった日本の国威を、同盟関係を締結した英国に紹介するというもので

した。

この英国倫敦で開催された大博覧会には、多様かつ膨大な諸物が陳列されますが、なかんずく「古美術」の部門では、国内を代表する名品が厳選されて、厳重な管理体制の中で展示公開されています。このとき、海をわたった日本代表の文化財のひとつが、渡辺華山筆「鷹見泉石像」でありました。すでにこの時代、この画像が、かくも文化財としての高い評価を認められていたということ、のみならず国際的な文化遺産として紹介されたということの証左と申せましよう。帰国した「鷹見泉石像」が、当時の所蔵主の元、茨城県古河市に帰ってきたのは、およそ一年後のことでした。

蛇足ながら付記しておきますが、昭和十三年(一九三八)、この国宝画像は、所蔵者である鷹見家の手を

離れ、東京帝室博物館(現在の東京国立博物館)に移管されて現在に至っています。近世肖像画の白眉にして、国宝絵画の掉尾を飾る「鷹見泉石像」。こうした泉石像を飾ることばに違わず、その文化財としての生命はますます尽きせぬものとなったのでした。



ところで、この画像の著名であることに比して、そのモデル鷹見泉石自身は、いまだ知られることの少ない存在と決って決して大げさではないかもしれません。

古河藩家老鷹見泉石(一七八五〜一八五八)は、渡辺華山より八年早く古河城下の四軒町屋敷に誕生。父は古河藩士井家中の鷹見忠徳、通称十郎左衛門、諱を忠常、号に泰西堂

や楓所、泉石などがあります。その生涯にわたり関心を持った洋学・地理学にかかわる文物や幕政・藩政・家政にまでかかわる歴史資料を数多く残しました。

その後、鷹見家では、歴代、泉石の臨終の場所となった旧古河藩土屋敷に住居し、その膨大な歴史資料をたいせつにほぼ散逸させることなく伝えます。その間、鷹見家では、いまだ地元存在しない博物館に代わり、帝室博物館で開催された特別展(明治三十九年)を皮切りに、町内のみならず全国各地で開かれた展覧会への出品に立ち会い、東京大学史料編纂所をはじめとする研究機関への資料提供などもおこないました。研究者たちの羨望を集める良質な歴史資料を抱えていたとはいえ、その管理に対する腐心はいかばかりであったことでしょうか。



鷹見泉石宛渡辺華山書状(部分)



金彩花つなぎ文切子瓶と金彩

泉石関係資料を含む鷹見家歴史資料のすべては、平成二年に開館した古河歴史博物館へ寄贈されました。ことし六月八日には、「鷹見泉石関係資料」三千百五十七点が、国指定の重要文化財となっています。そして、古河歴史博物館では、鷹見泉石関係資料を中心とする記念の特別展を開催することにいたしました。もちろん、華山と泉石の交流の一端も紹介する予定です。

渡辺華山が描き、鷹見泉石がモデルを勤めてはじめて成立した国宝画像。いまや日本を代表する文化財として普く知られているこの作品を誕

生せしめた両者の交流とはどのようなものであったのでしょうか。また、両者の交友、その足跡をたどる歴史資料が、このたび指定された資料群に含まれているのか等々、興味は尽きることがありません。

さらに、鷹見泉石関係資料をはじめて世に出すことになった帝室博物館の特別展、泉石像の日本代表への道を開いたこの展覧会の名称や規模、その目的なども、詳しくなることでしょう。

網羅的でありながら無限にひろがりをもつ鷹見泉石関係資料、そして、近代、その資料群が国指定の文化財に至るまでの道程、こうしたことどもに聊かなりとも関心を寄せられるのであれば、特別展「鷹見泉石展 国宝のモデルが集めた文物」をご観覧ください。どうかご来臨くださることを、こころよりお待ちしております。

ております。

末尾ながら、「ご高配を賜り、貴重な渡辺華山関係資料の出品を快諾くださった田原市および田原市博物館に対し、厚く御礼申し上げます。

古河歴史博物館 学芸員

永用俊彦



鷹見泉石作 新訳和蘭国全図

平成16年秋特別展
「鷹見泉石展―国宝のモデルが集めた文物」

会場 古河歴史博物館

電話 (0280)315211

URL

<http://www.city.koga.ibaraki.jp/re>

kihaku/index.htm

会期 平成16年10月22日(金)

～11月23日(火)

休館日 11/6(土)は午後8時30分まで開館

10/25

11/1・4・8・15・22

関連行事

火縄銃演武 11/23(火)

午前11時30分と午後2時

楓樹の茶会 11/6(土)

午後3時～午後8時

ギャラリートーク(各回60分)

11/3(水)午後2時

11/6(土)午後7時

11/20(土)午後2時

赤羽根小学校で聞きました
華山を知っていますか？

1 とき 平成十六年九月二十日(水) 授業後
参加者

大場一恵(6年)、宮下真帆(6年)
澤下 勝(6年)、太田啓輔(6年)
渡辺健二(6年担任)

みなさん、「渡辺華山」を知っていますか？

児 ハイ、知っています。(四人全員)

勉強したんだね。順番に、華山のどんなことを知ってるか話してください。

児 蘭学者でした。

児 江戸時代の画家でした。

児 藩の役人でした。

児 報民倉を造って、村の人を助けた人です。
華山という人について、どんな感想を持ちましたか？

児 村の人のために報民倉を造るなんて、偉い人にしてはやさしい。

児 虎の絵を見て、今にも動き出しそうだった。

児 ウン、すごい迫力があつた。

児 処刑されるかも分からんのに、開国を唱えるなんて、すごく強い人だと思いました。

先生、歴史学習のどんな場面で華山の勉強をしたのですか？

教 『解体新書』のことが、教科書に出てきます。これに関連させて西洋の学問 蘭学について勉強していた人があつたということから「華山」へ導入しました。しかし、『慎機論』が問題になって、最後は悲劇に終わったということをお話しました。

いい関連のさせ方ですね。今日のために、無理に華山を勉強したというのではないのですか。

教 そうです。たまたま『解体新書』が教科書に出てきたので、それに結びつけたのです。ごく自然です。

赤羽根には、華山の時代「遠見番所」というのがあつたことを知っていますか？

児・教 (全員) 知りません。
社会科の勉強が総合学習の時間

に調べるといいですね。

教 学校の行事の中に「あかはに探検隊」というのがあつて郷土を調べるのですが、春にやりました。

児 「厳王寺」や「ひかり岩」へ行きました。

児 「一色の磯」や「大石古墳」へも行きました。

教 秋は、土器作りをやりま。縄文や弥生土器を作つて焼きま。土もこの地域の粘土を使つて定です。

いいですね。是非、成功させてください。

ところで、みんな田原市博物館へ行ったことがありますか。(先生も含めて全員ありませんという返事)

出かけてくださいよ。「遠見番所」のことも含めて、華山の全体像がよく分かると思いますよ。

みんな、家におじいちゃんやおばあちゃんがみえますか。昔のこ

とを聞いたことがあるでしょう。

児 戦争のことかな。それと、地震が怖かつたという話。

児 竹やぶで寝ていたと言つてました。

もっとももっと、いろいろな話を聞くといいよ。

みんな、赤羽根が好きですか？

(口々に「いい所」という発言)では、よその人に赤羽根が自慢できるところは？

児 海です。

児 メロン作り。

児 菊作りです。

児 人がやさしいと思います。

どうしてそう言えるの？

児 あいさつがよくできる。大人の人でも、向こうから言ってくれる。素晴らしいね。赤羽根が自慢できる所を挙げてもらいましたが、田原の自慢といつたら「渡辺華山」を忘れることはできません。これから、もっともっと詳しく華山のことを勉強してください。

江戸時代は、田原藩の領内で、赤羽根も田原も一つだったということも忘れないでください。

(聞き手・文責 林 和彦)

各地の美術館を訪ねて

「常葉美術館」

静岡県小笠郡菊川町半済一五五〇

(〇五三七)三五 〇七七五

交通 / JR東海道本線菊川駅

下車徒歩15分

東名菊川インターチェンジ

より北へ2 km

開館時間 / 午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日 / 常設展：土・日・祝日

特別展：木曜日

展覧会によって休館日

が変更する場合があります。

このほか、展示替え

等のため臨時に休館する

場合があります。詳しく

はお問合せください。

入館料 / 常設展：無料

特別・企画展：有料

(展覧会によって異なります)



常葉美術館は、常葉短期大学と菊

川高校の美術・デザイン科開設5周

年を記念して、菊川キャンパス内に

昭和52年6月に、木宮和彦学園長に

よって開館しました。美術館の活動

は、美術・デザインを学ぶ学生・生

徒だけでなく広く一般市民の方々に

も美術を鑑賞する機会となるように

努めています。

所蔵品は、常葉学園長木宮和彦氏

及び郷里が菊川であった前慶應義塾

大学教授で、初代名誉館長故菅沼貞

三氏によって25年以上にわたって収

集されてきたもので、江戸時代の南

画家・渡辺華山とその弟子の作品
静岡県ゆかりの洋画家・曾宮一念

(一八九三～一九九四)の作品など

があります。また、静岡県内の現代

作家の展覧会を開催し、優秀作品を

収集しています。館蔵品は三百点余

に達しています。

江戸時代の収蔵品としては、江戸

の大御所といわれ活躍した谷文晁

(一七六三～一八四〇)の「秋景山

水図」、渡辺華山(一七九三～一八

四一)の「西王母図」「蘆汀双鴨図」

など若い時代の作品は言うに及ば

ず、壮年期にあたる群馬県桐生近辺

の実景図を描いた「毛武遊記図巻」、

水墨画の大作である「富峰驟雨図」

が挙げられます。華山の弟子の平井

顕斎(一八〇二～一八五六)の「楼

閣山水図」「碧山墨趣図」、福田半香

(一八〇四～一八六四)の「浅絳山

水図」(静岡県指定文化財)など代

表作が収蔵されています。さらに、

渡辺華山の弟子である椿椿山(一八

〇一～一八五四)や小田莆川(一

八〇五～一八四六)・永村茜山(一

八二〇～一八六二)などの作品もあ
ります。

その他、江戸時代の高僧・白隠

(一六八五～一七六八)と弟子の遂

翁(一七二七～一七八九)・東嶺

(一七二二～一七九二)などの禅僧

の遺品、御伽草紙である伝土佐光起

「文正草紙図巻」などの作品があり

ます。

洋画としては日本近代洋画史のな

かでも重要な足跡を残した曾宮一念

の作品が多数収蔵されており生涯に

わたる油絵と水彩・素描など90点余

を越えます。

展覧会は、春と秋には日本と西洋

の質の高い美術品の鑑賞する機会と

なるように配慮して開催されていま

す。また、近年は常葉学園大学の造

形学部の開設にもない新しい造形

表現の分野の紹介にも努めてきてい

ます。今秋に開催される田原市博物

館秋の企画展「渡辺華山と弟子たち」

では、40点の所蔵作品をご覧いただ

けます。

田原市博物館学芸員 鈴木利昌

財団法人華山会
田原市博物館 から
ご案内

企画展のご案内

十月八日～十一月十四日

秋の企画展「渡辺華山と弟子たち」
静岡・常葉美術館所蔵コレクションによる「(企画展示室)」
同時開催 渡辺華山の書(特別展示室)

一月一日～三月三十一日

新春企画展「田原市博物館蔵名品選」渡辺華山と関係画家を中心に「(特別展示室、企画展示室)」
前期 二月六日まで
後期 二月十日から



福田半香筆『春江山水図』

平常展のご案内

十一月十八日～十二月二十六日

贋物とレプリカをみてみよう
渡辺華山・小華ほか(特別展示室)
吉祥 酉年がやってくる(企画展示室)

三月二十五日～四月二十四日

谷文晁・渡辺華山の山水 中国へ
のあこがれ(特別展示室)
田原の歴史～岡田虎二郎 静坐法
とその思想(企画展示室1)
渥美古窯の時代(企画展示室2)

常設展示室では渡辺華山の生涯を紹介しています。
民俗資料館では田原の暮らしを中心に展示しています。

赤羽根文化会館展示室でも所蔵品を展示しています。

観覧料

企画展

一般 五〇〇円(四〇〇円)

小中生 一〇〇円(八〇円)

()内は二十名以上の団体の料金

平常展

一般 二二〇円(一六〇円)

小中生 一〇〇円(八〇円)

()内は二十名以上の団体の料金
毎週月曜日は休館、月曜日が祝日の場合は翌日

催しものご案内

十月三十一日 午前十一時

秋の企画展展示解説
田原市博物館学芸員

一月十六日・三月六日 午前十一時

新春企画展展示解説
田原市博物館学芸員

財華山会から
華山・史学研究会会員募集中

申込場所 華山会館事務室

毎月第四土曜日研究会

視察研修(年一回)に参加できません。

華山会報 第十二号

平成一六年一〇月二一日発行

編集発行 財団法人華山会

理事長 白井孝市

事務局長 光浦貞佳

〒四四一-二四二二

愛知県田原市田原町巴江二の二

TEL 五三二・二三二・一七

FAX 五三二・二三二・一七一

編集・協力

田原市博物館

華山・史学研究会

会長 渡辺巨祥

林 和彦 山田哲夫

別所興一 加藤克己

小川金一 中神昌秀

柴田雅芳 増山禎之

林 哲志

華山会報ご希望の方は華山会館・

田原市博物館にお申し出ください。

次回発行予定平成一七年四月二一日